

国立大学図書館協会東北地区協会主催 令和3年度職員研修 開催要項

コミュニケーションの場をひらく：

図書館が企画するこれからのワークショップ

1. 趣旨

新型コロナウイルスの流行をきっかけとして、ネットワークを利用したコミュニケーションが世界的に活発になっています。図書館でもオンラインによる職員研修や利用者向け講習会の実施により、新たなコミュニケーションの場が構築されつつあるものの、一方的な情報発信に留まってしまうケースも多いのではないのでしょうか。「知を創出する場の拡大・整備・提供」を目標として掲げている国立大学図書館においては、人と人との相互作用が生まれる場＝「ワークショップ型」のコミュニケーションの場を提供することが、今後の課題解決の一つになると考えられます。

そこで本ワークショップでは、「コミュニケーション」の観点から「場」の研究をしている加藤文俊氏（慶應義塾大学環境情報学部教授）を講師としてお招きし、ワークショップのあり方についてご講演いただきます。また、ワークショップの手法の一つを実際に体験し、より良い「コミュニケーションの場」「交流の場」についての再考するとともに、これからの「知を創出する場」を企画するヒントに繋げることを目的としています。

2. 主催／後援及び企画

主催：国立大学図書館協会東北地区協会

後援：東北地区大学図書館協議会

企画：「職員の企画・運営による職員のためのワークショップ」企画運営スタッフ(第13期)

3. 日時/開催方法

日 時：令和4年1月27日（木）13：20～17：00（受付13：00開始）

開催方法：Web会議ツール（Zoom）を利用したオンライン形式

4. 参加資格

東北地区の大学図書館に勤務する職員

※定員に余裕がある場合、第1部講演・第2部Q&Aは上記以外の方も参加可能です。

※各部とも、参加希望者が多数の場合は先着順による締め切り、または抽選による人数の調整を行う場合があります。

5. プログラム

13:00-13:20	受付 (Zoom 会議ページへのアクセス)
13:20-13:30	開会
13:30-15:00	第 1 部：講演 講師 加藤 文俊 氏 (慶應義塾大学環境情報学部教授)
15:00-15:10	休憩
15:10-15:40	第 2 部：Q&A 第 1 部の講演や、講師著書『ワークショップをとらえなおす』(ひつじ書房,2018)に関する質疑応答のほか、事前アンケートで「コミュニケーション」や「ワークショップ」について質問・疑問を募集し、加藤先生にご回答いただきます。 ※時間の都合上、全ての質問にはお答えできない場合もあります。
15:40-15:50	休憩 ※第 3 部に参加しない参加者は退出
15:50-16:50	第 3 部：ワークショップ 事前アンケートで募集する 【大学図書館について】のトークテーマをもとに、「自画持参」のワークショップを体験します。 ※傍聴のみの参加はできません。 ※参加人数に応じて、Web 会議ツールのブレイクアウトセッション機能を使用したグループワークとなります。 ※「自画持参」については、別紙『「自画持参」のワークショップについて』、講師著書『ワークショップをとらえなおす』(ひつじ書房,2018)等をご参照ください。
16:50-17:00	閉会

6. 参加申込について

(1) 申込方法 下記 Web フォームよりお申し込みください。

URL : <https://forms.gle/quZKUuibhm1YXZot6>

※後日、申込メールアドレス宛に Web 会議ツール接続用 URL を送付致します。

※申し込みの際に、第 2 部 Q&A の質問および第 3 部ワークショップで使用するトークテーマの募集を行います。

(2) 申込期限

令和 4 年 1 月 20 日 (木) 17:00

7. 問合せ

国立大学図書館協会 東北地区協会事務局 (東北大学附属図書館総務課情報企画係)

E-mail : lib-som@grp.tohoku.ac.jp

TEL : 022-795-5911 FAX : 022-795-5909

8. その他

(1) 第3部ワークショップへの参加は希望制です。

(2) 第3部ワークショップでは、グループワークでの発言が必須のため、傍聴のみの参加は不可と致します。第1部講演、第2部 Q&A のみの参加を希望する場合は、第2部終了後の休憩時間中にご退出いただきますので、ご了承ください。

(3) 申し込みをキャンセルする場合は、令和4年1月21日(金)17時までに事務局へメールでご連絡ください。

【講師紹介】

慶應義塾大学 環境情報学部 教授 加藤 文俊（かとう・ふみとし）氏

1962年京都府生まれ。龍谷大学国際文化学部講師等を経て、現在は慶應義塾大学環境情報学部教授、同大学院政策・メディア研究科委員長を務める。専攻はコミュニケーション論、メディア論、定性的調査法。フィールドワークの成果の公開・過程振り返りの場として「フィールドワーク展」を開催している。

著書

『ワークショップをとらえなおす』（ひつじ書房, 2018）

『会議のマネジメント：周到的準備、即興的な判断』（中公新書, 2016）

『つながるカレー：コミュニケーションを「味わう」場所をつくる』（フィルムアート社, 2014）他多数。

【参考】

- ・ 慶應義塾大学環境情報学部加藤文俊研究室ウェブサイト『fklab.today』
(<https://fklab.today/>)
- ・ 加藤文俊著『ワークショップをとらえなおす』（ひつじ書房, 2018）



(別紙)

「自画持参」のワークショップについて

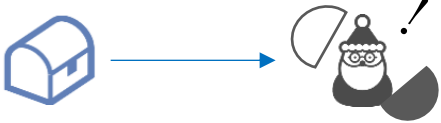
(1) 「自画持参」とは

発言する参加者や順序、話題が予め指定されず、参加者各自が話題を持ち寄り（＝「持参」）、その場でランダムに選ばれた話者と話題によって即興的に進行するワークショップの形式。「誰が何について話すか」をランダムに選ぶことによって、普段当然だと感じているコミュニケーションの構造を問い直すものである。

今回は、これまで経験のない形式のワークショップを体験することで、「こうあるべき」「こういうものだ」というワークショップ/セミナー/トークセッションといったコミュニケーションの場の思い込みを壊し、今後の自館における企画づくりに繋げることを目的とする。

(2) 「自画持参」の進め方

①		その場で「大きなトークテーマ」を決定する
②		大きなトークテーマに即し、各自が「具体的なトークテーマ」を考える
③		考えたトークテーマを紙に書いてカプセルに入れ、「テーマ」の箱に入れる
④		自分の名前を紙に書いてカプセルに入れ、「名前」の箱に入れる
⑤		テーマの箱からカプセルをひとつ引き、トークテーマを決める
⑥		各自が2分間で喋る内容を考える

⑦ 	名前の箱からカプセルを引き、スピーカー（話者）を決める
⑧ 	スピーカーは、3分間でトークを行う
⑨ 	⑧のトークについて、参加者で10分間意見交換をする

今回のワークショップはオンライン開催のため、これに少しアレンジを加えて実施します。参加者の人数に応じて、グループに分かれる場合もあります。

※参考文献：加藤文俊著『ワークショップをとらえなおす』（ひつじ書房,2018 年）